

グリーン四国

No.1168
2017年
7月号



飛行するドローン



自治体職員を対象としたドローン講習会の様子



四国森林管理局と高知城（ドローンで撮影）

特集 四国森林管理局におけるドローン(無人航空機)の活用

目次

・四国森林管理局におけるドローンの活用	2
・「日本美しい森 お薦め国有林」の紹介 第2回「剣山自然休養林」	5
・ふれあい親子体験ツアー『森と水とエネルギー』開催	6
・樹木教室「地域の樹木に名札を付けよう」	6
・各地のたより	7
・『日本遺産』認定 ～森林鉄道から日本一のゆずロードへ～	10
・『林業遺産』認定 ～初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林～	11
・シリーズ 四国の森林からこんにちは	12



四国山の日

四国森林管理局

高知市丸ノ内1丁目3-30
TEL 088-821-2052
FAX 088-821-4834
HP <http://www.rinya.maff.go.jp/shikoku/>
E-mail shikoku_soumu@maff.go.jp

特集

四国森林管理局におけるドローンの活用

無人航空機の活用方法 に関する勉強会を開催

〈企画調整課〉

6月19日、四国森林管理局において無人航空機（ドローン）の活用方法に関する勉強会を開催しました。

ドローンが各署で本格的に運用されはじめて半年ほどが経過し、現場からは活用方法について様々な意見や要望が出され、文字ベースの情報交換だけでは理解が進まない状況でした。

このため、これまでの活用事例と今後の可能性について、勉強会を開催することとしました。

勉強会には、局長・部長をはじめ署長から係員までドローンに関心の高い職員約60名が参加しました。

これまでは、ドローンを利用してシカ防護柵点検、災害箇所や森林の



業務管理官による講義

現況調査用の写真を撮影するだけでなく、今回の勉強会ではそこから一歩進んで、区域撮影を行うための自動飛行ソフトの使用方法、地理情報システム（GIS）で利用可能な画像の作成方法、パノラマ写真の撮影・作成方法、5月にいの町で行われた登山者行方不明捜索活動に参加した際の課題等、ドローンのフライトログを地理情報システム（GIS）

へ取り込むことで距離計測や面積計算に活用する方法について理解を深めました。

参加職員からは、自動飛行やGIS連携など具体的かつより専門性の高い分野での使い方で意見がかわされ、業務で有効なツールとしての期待が伺われました。

今後も引き続き、ドローンの操作技術を上げていくのはもちろんのこと、勉強会などを開催していくことで、職員が行う日常の森林管理業務のサポートとなるように取り組んでいきたいと考えています。

徳島署、徳島県、三好市 と合同で治山施設点検

〈徳島森林管理署〉

5月30日、徳島森林管理署では山地災害防止キャンペーンの一環とし

て、過去に徳島県が民有林補助治山事業を施工した箇所において、徳島県西部総合県民局、三好市と合同で、ドローンによる治山施設点検を初めて行いました。



上空から治山施設点検中のドローン

今回の点検箇所は、平成10年11月に発生した地すべり地で、幅100m、斜面長2000mの区域から約15万m²の崩土が発生し、民家2戸が損壊するなどの被害を受けた箇所です。徳島県が平成11年度から5ヶ年間でアンカー工などを施工している



ドローンを見上げる参加者

箇所です。その後、徳島県は毎年施設点検を行っているところであり、今回初めて徳島署のドローンを飛行させ、上空から広範囲の治山施設の点検を行いました。

徳島県や三好市の担当者からは、これまで半日、あるいは数日を要していた治山施設点検が、わずか30分程度で終わることができるとの驚きのほか、鮮明にドローンから写し出される映像を見て施設が壊れていないかなど確認しました。

また、参加者からドローン撮影で得られた情報を分析し、今後の施設点検に活かしたいなど、様々な意見

が出されました。

徳島署では、中山間地域での担い手不足の中、ドローンを治山施設点検のみならず、森林・林業の様々な分野での活用を図っていきたくと考えています。

嶺北森林管理署と嶺北地域四町村等による無人航空機等を活用した活動支援協定の締結

〈嶺北森林管理署〉

5月31日、高知県本山町のプラチナセンターにおいて、嶺北地域四町村（本山町、大豊町、土佐町、大川村）と同地域の消防本部、嶺北森林管理署が、川村高知県林業振興・環境副部長と野津山四国森林管理局長立ち合いの下、「嶺北地域における無人航空機等を活用した活動支援の運用に関する協定」を締結しました。

この協定は、嶺北地域の民有林において、地震、大雨、台風等の自然現象により甚大な被害を受けた際、その応急措置に関して、嶺北森林管理署が所有する無人航空機（ドローン）等を活用した災害状況の情報収

集及び提供のほか、撮影データに基づく被災範囲、原因の推定や災害対策の提案等を行うもので、台風・梅雨シーズンを前に、締結することができました。



締結式の様子

協定締結後は、旧本山中学校のグランドに移動してドローンのデモ飛行を行い、各町村等の担当者がドローンからの映像をモニターやタブレットで確認していました。当日はマスコミ関係者も多数集まり、各町村や森林管理局署の担当者が対応に追われていました。

嶺北森林管理署としては、災害時の支援はもとより、平時は地域の観光資源PRなどにも活用するなど、今後も新たな民有林支援に取り組み

たいと考えています。



デモ飛行の様子

協定に基づくドローンのデモ飛行を実施

〈徳島森林管理署〉

今年3月、三好市との間で締結した民有林災害時におけるドローンを活用した民有林支援の協定に基づき、ドローンのデモ飛行を6月1日、櫻尾国有林の治山事業施工地において行いました。

デモ飛行当日、三好市林業振興課、危機管理課の担当者に加え、徳島県西部総合県民局の担当者ら24名が参加しました。

まず初めに、ドローンを飛ばし、

事業地を撮影した映像をリアルタイムに見て、被災地の形状や位置などを確認しました。



ドローンで撮影した画像

次に、実際に撮影した映像を3D解析し、より詳しく事業地の形状等を確認しました。参加者からは、「具体的にどのようなデータ等が提供できるのか」、「3D解析した映像が次の災害申請に役立つ」などの意見が出されました。

最後に、衛星携帯電話による緊急連絡支援の予行練習として、現地から三好市危機管理課に連絡を入れ、災害時に有効な連絡手段となることを確認しました。

徳島署では、今回のデモ飛行で確認できた課題を整理し、災害発生時

の支援に役立てていきたいと考えています。



タブレットでドローンの飛行を確認

ドローンの活用・連携 を目指して

〈安芸森林管理署〉

6月12日、安芸森林管理署において管内自治体の安芸市、馬路村職員を対象に、ドローンの講習会が実施されました。

今回の講習会は安芸市長への表敬をきっかけに実現したものでしたが、受講者は安芸市から建設課や消防署など職員22名、馬路村からは産業建設課2名、そして局署職員12名の計36名の参加となり、

ドローンへの関心の高さをうかがわせました。



講習会の様子

高知県東部地域は、雨が多く、また山間地の小集落への行き止まり道が多いことから、小さな土砂災害一つが致命傷となる場合もあるため、各自治体とも災害時の初動対応に重きを置いています。

このため、簡便で機動力のあるドローンには精度の高い状況把握や現地での安全確保に有効と期待されているようです。

講義に続く実技では、最初こそ戸惑っていましたが、簡単に操作がで

きる事がわかると、何度も交代しながら熱心に取り組んでおり、業務でのドローン活用の可能性を感じているようでした。



局職員によるドローン操作実演

今回の講習会では、安芸市の職員からは、保有機数や用途などについての質問のほかに機体の価格など導入へ向けた具体的な質問も出されていました。

当署ではドローンを災害調査やシカ防護網の点検、森林調査等に活用しており、今後、さらに練習・実践を積みかさねるとともに、今回の講習会を機会として地元自治体等と連携した災害対応など様々な対策に取り組みたいと考えています。

「日本美しいの森 お薦め 国有林」の紹介【第2回】

〈保全課〉

【剣山自然休養林】

〈徳島森林管理署管内〉

1 概要

所在地 徳島県つるぎ町・那賀

町・三好市・美馬市

面積 1271.56 ha

レクリエーションの森指定

昭和46年12月1日

2 特徴

剣山自然休養林は、見ノ越峠から、南側に剣山地区、北に葛籠地区、西に塔の丸地区、東に赤帽子地区の4地区からなる自然休養林となっています。

見ノ越峠を中心に北側へ丸笹山(1712m)、西側へ塔丸(1713m)、東側へ赤帽子山(1629m)を有しており、特に南側に位置する剣山地区は、剣山国定公園の一部を構成しており、西日本第二の高峰、剣山(1955m)をはじめ、西に次郎笈(1930m)、東に一ノ森(1879m)が連なり、山々の間をぬうように、吉野川の支流である祖谷川、貞光川、穴吹川の各河川や那賀川の支流で

ある坂木木頭川が放射状に流下しています。

3 みどころ

葛籠・塔の丸・赤帽子の3地区にある丸笹山、塔丸、赤帽子山は、剣山と谷を隔てて対峙するように位置するため、山頂から剣山・次郎笈を望むことができ、それらをバックに記念撮影ができます。

剣山については、山頂への登山ルートが、スーパー林道から登山できる南側ルートとリフトにより登山できる北側ルートがあり(そのほかにもルートがあります)、初心者から上級者まで体力に合わせたルートの選択が可能です。

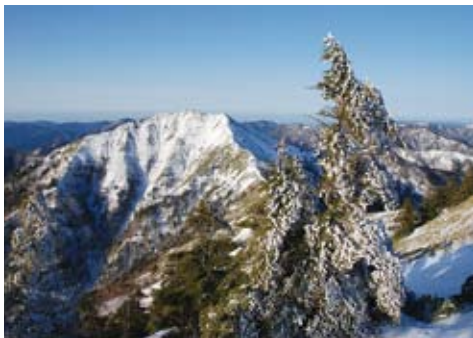
南側ルートは、スーパー林道沿いから登山口が伸びており、上がるとすぐに当自然休養林に設定している区域を散策することができます。また、スーパー林道は一般車両も通行できるため(冬期は、全面通行止め)、道沿いから手軽に美しい紅葉を見ることが出来ます。

北側のルートは、剣山植物群落保護林に設定されている区域散策できます。三好市見ノ越(海拔1400m)から登るルートのほか、登山リフトを利用することで海拔1700m付近(西島駅)まで行くことができ、そこから3本のル

トにて剣山頂上へ登ることが出来ます。最短ルートであれば、リフトから40分ほどで剣山山頂へ登ることが出来ます。山頂近くに位置する大剣神社の御塔石の下から湧出する御神水は、古くから病気を癒す若返りの水といわれています。ミネラル分を多く含み、名水百選の一つにも選ばれています。

山頂付近は広くなだらかな地形で、背丈の低いミヤマクマザサで覆われ、白骨林やゴヨウマツ、シコクシラベの群落もみられます。山頂からの眺望は、360度の大パノラマとなっており、室戸岬や足摺岬をはじめ、西日本の最高峰石鎚山などの山々も天候次第では望むことができます。

剣山自然休養林内には、高山植物の群生地や原生林もあり、春は若葉、初夏から夏にかけての花木の開花、秋は燃え立つような紅葉と四季それぞれの雄大な自然美を見せてくれます。登山、ピクニック、キャンプ、避暑、紅葉狩りなど様々な楽しみ方や見所があります。剣山から周りの山々を見渡すのも良し、周りの山から剣山を望むも良し、皆さんも「霊峰つるぎと秘境の里」を楽しんでみてはいかがでしょうか。



冬の剣山



剣山中腹から夫婦池方面を望む



次郎笈から見た剣山(太郎笈)

ふれあい親子体験ツアー 『森と水とエネルギー』開催

6月3日、四国電力株式会社高知支店との共催で一般公募による「ふれあい親子体験ツアー」を開催し、9組22名の親子が参加しました。



体験ツアー参加者の皆さん

このイベントは、6月の環境月間に併せて、小学生とその保護者を対象に、森林の役割や水とエネルギーとの関係について理解を深めることを目的に行われており、今年で15回目を迎えます。

当日はテレビ局の取材が入り、少し緊張する中での開会式を終えた後、道の駅「土佐さめうら」近くの地蔵寺川でアメゴを放流しました。参加者は嶺北漁協の方から、アメゴの体

にはパーママークと呼ばれる斑紋と朱点があることや、カリウムやカルシウムなどの栄養成分が含まれることについて説明を受けていました。

次に訪れた本川発電所エネルギープラザで水力発電について学んだ後、地下300mにある発電所へバスで移動しました。秘密基地へ向かう気分です。トンネルを進んで行くと、その先には高知県庁がすっぽり入る程の大きさの発電所があり、そのスケールの大きさに圧倒されていました。

次に局職員が森林教室を行い、続く木工教室では親子で協力してダムのコロコロゲームを作成しました。子供たちはポス力でアメゴやカエルなどに色を付け、それぞれの作品の仕上がりは満足そうでした。



ダムのコロコロゲーム

その後のゲーム大会では、ゴム鉄砲やビンゴゲームなどに挑戦し、あっといいう間に時間が過ぎました。

参加者からは、「水力発電の役割が理解でき、また、実物を見学出来て良かった」や「アメゴの放流や木工教室も楽しかった」等の感想をいただきました。

〈技術普及課〉

樹木教室「地域の樹木に名札を付けよう」

6月11日、高知市横浜新町「横浜新町まちづくり市民会議」から要請を受け、同町内にある「くすのき公園」において樹木教室を実施しました。

この市民会議は、「親子で樹木の特徴や役割を楽しく学び、小学校の校庭や公園の樹木に名札を付けよう」という趣旨で平成25年度から取り組んでおり、今回で4回目の講師派遣となります。

当日は、昼前まで雨が降っていましたが、開始時間頃には日が差すまでになり、小学生や父兄等総勢57人が樹木の学習を行いました。

事前学習として、広葉樹と針葉樹の違いや葉の付き方などを説明した後、予め用意していた12種類の針葉樹と広葉樹の枝葉に実際に触れてもらいました。

特異なものとして、「ナギ」という種は葉が広いのに針葉樹、「ヒイラギ」という種は葉の先が尖っているのに広葉樹といったものも紹介しました。

この後、3班に分かれて公園内にある19種類36本の樹木の木肌に触れ、葉の様子を観察しながら学習しました。

その中で、クヌギの木の下で芽を出しているドングリを見つけた児童が

「初めて見た、芽は先っぽから出るんだ」と新しい発見を喜んでいました。

その後は、児童らが説明資料や実際に取ってきた葉を見ながら樹名板を作成しました。中には樹木の絵の隣にアニメのキャラクターを加えたり工夫する子もおり、参加者は思いの樹名板を作り上げました。

出来上がった樹名板は、児童らがスタッフや父兄と一緒に樹木に取り付けました。



完成した樹名板



設置した樹名板

昨年に引き続き参加した児童も数名おり、このような児童が年々増え、いき、樹木への興味、ひいては森林への関心が益々広がっていくことを期待して樹木教室を終えました。

〈技術普及課〉

各地のたより



技術開発課題に貴重な

意見

〈第1回技術開発委員会を開催〉

6月6日、第1回技術開発委員会を局2階会議室で開催しました。

当委員会は、四国森林管理局技術開発委員会運営要綱に基づき、技術開発の計画・評価・方法等について、森林生態学、林木育種、遺伝資源



技術開発委員会の様子

森林管理経営等の専門家の委員の意見を伺うものです。

今回の審議課題は、

1. 保育作業の省力化による森林育成技術の確立

2. エリートツリー植栽による刈省力化試験及びシカ食害防止クリップの効果の検証

3. 竹を利用したシカ害対策について

4. 再造林地での効果的なシカ捕獲手法と捕獲後の影響及び捕獲効果の検証

5. 再造林地でのノウサギ食害対策について
の5課題について意見・助言等をいただきました。

各委員から出された主な意見等としては、

課題1では、

・調査結果では試験途上であり「保育作業の省力化」に繋がる事象を

検証すること。

課題2では、

・シカクリップでは、シカの生息密度の高い地域では植栽木を守るのは難しいこと、また、ノウサギの食害に対しては無力であることなどから、「日本では、クリップだけで植栽木を守るのには難しいと言わざるを得ない」との見解。

課題3では、

・現在開発中の苗木単木保護用の生分解性フィルムと放置竹林材を使っている試験の成果に期待。今後、試験本数を増やし、様々な条件下での試験を継続すること。

課題5では、

・再造林地の増加が予想される中、ノウサギ駆除はシカ食害とともに重要になること、ノウサギの捕獲には、生息状況の把握が重要である等々、各委員からは貴重な意見・助言等が活発に出されました。

各地のたより 目次

技術開発課題に貴重な意見～第1回技術開発委員会を開催～

小筑紫小学校で年間を通した森林環境教育を実施

滑床渓谷で森林や木に関する様々な体験学習を開催

中村小学校で森林教室を開催



生分解性フィルムと竹を活用したシカ対策

当センターでは、これらの貴重な意見等を踏まえ、今後の試験設定のあり方など技術開発・普及に活かして行くこととしています。

〈森林技術・支援センター〉

小筑紫小学校で年間を通した森林環境教育を実施

宿毛市立小筑紫小学校の5年生は、平成25年度から「総合的な学習の時間」を利用して毎年度4～5回継続して森林環境教育を実施しています。



樹木名板製作の様子

今年度も学校からの支援要請を受け、年間4回実施する予定となっており、この第1回目として5月23日に児童13名を対象に、森林の働きや校庭の樹木学習と樹木名板製作をしました。

最初に森林の働きを説明し、森林の大切さを理解してもらいました。続いて、下敷き「いろいろな木と葉っぱ」を用いて、この後に予定されていた校庭の樹木学習で観察するポイントについて簡単に説明した後、実際に校庭の樹木の幹や枝葉に触れ、木の肌の感触や葉や花の匂いを嗅ぐなどの体験を通して、27種の



木の重さ等を知る実験の様子

最後の昆虫の壁掛け製作では、作り方の説明をつけた児童達が、クワ

樹木の名前や特徴をわかりやすく説明しました。

その後、ヒノキの板に、ポスターカラーで和名と科名を書き、余白には、思い思いのイラストを描き、樹木名板を完成させました。

第2回目となる6月13日には、木工ラフト学習を実施しました。

最初に、材料となる「木材の特徴」について説明し、木材には優れた性質（長所）や欠点（短所）もあり、木材を上手に使う工夫をして色々な物や場所に木材を使っていると説明しました。



昆虫の壁掛け製作の様子

ガタムシ、カブトムシ、チョウ、テントウムシ等の各パーツに色をぬり、ボンドでヒノキの板に貼り付けて作品が完成しました。

校庭の樹木学習の後でもらった感想文では、ほとんどの児童が、「年間4回の学習で、木のこと、森林のことをもっと知りたいです。」と書いていたことから、当所としても、年間を通じた森林環境教育を通して、児童の樹木や自然環境、森林等への興味や理解が深まることを期待しています。

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉



滑床溪谷の遊歩道での説明の様子

滑床溪谷で森林や木に関する様々な体験学習を開催

6月2日、愛媛県松野町立松野東小学校全校児童29名を対象に、足摺宇和海国立公園内の滑床溪谷で、森林や木に関する様々な体験学習を実施しました。

最初に、万年橋から雪輪の滝まで、遊歩道沿いの樹木を学習しながら滑床の自然の美しさ雄大さに触れました。

次に、滑床アウトドアセンター万
年荘前広場等において、ネイチャー
ゲーム「葉っぱジャンケン（葉っぱ
を使ってジャンケン遊びをすること
で、葉っぱには色々な色や形・大き
さなどの特徴があることに気づく
ゲーム。）」、「ミラーハイク（手鏡
の向きや高さを変えながら、また
違った森の姿を発見するゲーム。）」
及び「木漏れ日キャッチ（画用紙を
使って、植物と光と影がつくる一
度限りのアートを楽しむゲーム。）」
を行いました。

午後は、緑地広場において、「カ
モフラージュ（生き物たちの中に
は、周囲の木の葉や幹と同じ色をし
て、敵から身を守っているものがい
ます。テープに沿って置いた人工物
を探し出すゲーム。）」等を行い、最
後に、万年荘前広場において、スギ
板等を使用した、愛媛県のゆるキャ
ラ「みぎゃん」のストラップを製作
しました。

参加した児童からは、「いろいろ
なネイチャーゲームや体験が出来て
楽しかったです。なかでもカモフ
ラージュがとても楽しかったので、
また学校でやってみたいです。美し



ネイチャーゲーム「カモフラージュ」の様子

い滑床の自然をこれからも大切にし
ていきたいと思えます。」とお礼の
挨拶がありました。また、学校から
は、「普段の学校では体験できない
活動を通じて、滑床の自然の美しさ
や森林の大切さを知ったとても楽し
い一日となりました。」と挨拶があ
りました。

当センターとしても、今回の体験
が児童の樹木や自然環境、森林等へ
の興味や理解につながったものと考
えます。

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉

中村小学校で森林教室 を開催

四万十市立中村小学校から「4年
生を対象に、水のゆくえの話を通し
て森林の大切さについて教えてもら
いたい。」との要請があり、6月12
日に4年生42名を対象にした森林教
室を開催しました。

初めに、電子掲示板で「水のゆく
え」等に関する説明を行い、次に、
下敷き「森林の働き」を活用し、森
林の持つ様々な働きについて説明を
行いました。



「水のゆくえ」の講義の様子

児童からは、「これからも森林や
水を大切にしたいと思いました。」
との感想をもらい、学校からは、「4
年生はちょうど防災学習をしている
ので、今日の話で、森林の持つ防災
などの働きや水の大切さについての
理解が一層深まったと考えます。次
回もよろしく願います。」とお
礼の挨拶がありました。

当所としても学校の要請に応える
ことができ、身近な自然や飲料水の
源である森林を大切に守って行くこ
とが必要であることを理解してもら
え、大変有意義であったと考えてい
ます。

〈四万十川森林ふれあい推進センター〉





『日本遺産』認定

森林鉄道から日本一のゆずロードへ

文化庁が地域の歴史的魅惑力や特色を通じて日本の文化・伝統を語るストーリーを認定し、国内のみならず

海外へも情報発信を行い、地域の活性化を図ることを目的とした「日本遺産」が4月28日に発表され、高知県の中芸5町村（馬路村、北川村、田野町、奈半利町、安田町）が中心となり申請（四国森林管理局も協議会の一員として参加）していた「森林鉄道から日本一のゆずロードへ」が香りに彩る南国土佐・中芸地域の景観と食文化が新たに認定されました。

日本遺産の認定にあたっては、ストーリーを語るうえで欠かせない魅惑力あふれる有形・無形の文化財群を、地域が主体となって総合的に整備・活用することも求められており、かつて国有林が敷設し、この地域の林業のみならず地域を支えた森林鉄道

の価値が改めて評価されたこととなります。

魚梁瀬森林鉄道は、銘木「魚梁瀬杉」の産地で、かつて営林署が設置されていた馬路村・北川村から海岸沿いの安田・田野・奈半利町を環状に繋ぐように整備されており、木材だけでなく、通学、荷物の運搬住民の交通機関等として利用され、日本有数の乗降客数を誇る森林鉄道として、中芸地域の生活や文化、食卓を支えてきました。そして、今なお、森林鉄道が育んだ繁栄の跡を中芸地域では見ることができます。平成21年には、魚梁瀬森林鉄道の5カ所の隧道と9基の橋梁が森林鉄道遺構として複数町村にまたがる広域指定として、日本で初めて「国重要文化財」の指定を受けています。

一方で、時代の移り変わりと共に中芸地域の産業は、林業からゆずの

栽培へと変化してきました。中芸地域のゆずの生産は、北川村で中岡慎太郎が、その生産を奨励したことがきっかけと言われており、近年、ゆずの価値と魅力を再発見した地域の

人々は、ゆずを産業化するために、役割を終えた森林鉄道の軌道敷の周辺や、木材を搬出していた山間地をゆず畑に変え、今では日本一のゆず産地になっています。

こうして、木材を運んでいた日本有数の森林鉄道は、地域の新たな産

業であるゆずを運び道へと姿を変え、現在もなお、地域の産業や文化を支える役割を担っています。

このように、森林鉄道を中心としたストーリーが日本遺産として認定されたことは、四国森林管理局としても光栄なことであり、今後も地域の国有林として、森林鉄道の遺構等を活用した地域活性化の取組を地域と共に進めていきたいと考えています。

企画調整課



日本遺産、認定。

認定ストーリー 森林鉄道から日本一のゆずロードへ
— ゆずが香る南国土佐・中芸地域の景観と食文化 —

『林業遺産』認定

初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林

林業遺産は、日本各地の林業の歴史を読み解き、将来にわたり記憶・記録するために、日本森林学会が2013年度から設定されているものです。

2016年度までに全国で16件選定されていますが、今回、2017年5月23日に「初代保護林 白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林」が認定されました。

白髪山天然ヒノキ林木遺伝資源保存林は、大正4年に保護林制度が発足したときに指定された5箇所のうち、現在も保護され指定区域も変わっていない唯一の保護林です。

白髪山天然ヒノキの利用は古く、戦国時代には既に名産物となっており、江戸時代には土佐藩が伐採し、吉野川を筏で下り大阪に運び、城郭寺院等に使用されていました。白髪山で最も特徴的なヒノキ林は、山頂

南側付近の白骨林です。ここでは、風によって立ち枯れしたと思われる数千本の白骨林が緑の林冠に混在する様子が見られ、自然の厳しさを感じさせる景観となっています。

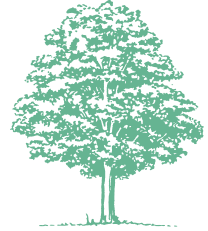
今回、この森林の学術的価値だけでなく保護林制度自体が評価され、林業遺産として選定されるに至りました。四国森林管理局では、地元山町とも連携して、この保護林の適切な保護管理に取り組んでいく考えです。

〈計画課〉



シリーズ

も り 四国の森林からこんにちは



四万十森林管理署 梶原森林事務所 森林官 森田 晃喜

○「森の聖地」梶原町

高知県の西北部、愛媛県との県境に位置し、標高1450mを超える四国カルストの山々に囲まれた町、梶原町。

町の総面積約2万4千haのうち約91%を森林が占め、そこから流れ出る川々は、清流四万十川を支えています。

梶原町では、その豊かな森林（資源）を将来にわたり維持し、共生していく為に、様々な取組が実践、推進されています。

〈癒やしと学びの場としての森林〉
梶原町は、平成19年に森林セラピー基地の認定を受け、町内にある2本の認定森林セラピーロードにおいて、町民や観光客に癒やしを提供しています。

また、「もりのようちえん」や「森林ボランティア協働の森づくり」等のイベントが開催されており、児童の学習や企業等の研



久保谷セラピーロード

修の場として森林が活用されています。

〈環境に優しい森林づくり〉

梶原町は、平成21年に「環境モデル都市」に選定され、「生き物に優しい低炭素な町」を実現すべく、風力発電等、豊かな自然環境や森林を活用した様々な取組みが行われています。

また、環境保全に配慮し、経済的にも持続可能な森林づくりを理念に掲げており、現在では、梶原町の森林（国有林を含む）の約6割がFSC認証を取得しています。

さらに、森林整備の際にできる間伐材及び製材所の端材等の未利用材を町内の木質ペレット工場でペレット化し、地域の様々な施設で燃料として活用するなど、森林資源の地域循環利用が推進されています。

〈森林を活かす木材利活用〉

梶原町では、古くからの木造建築物の保存に努める一方で、町内で生産された木材を利用した学校等の公共施設の木質化を積極的に推進しています。

町内に多々ある木造建築物の

中でも、「新国立競技場」の設計も手がける隈研吾氏が設計した「雲の上のホテル」等の木造建築物群は、「森の聖地」梶原町のシンボルとなり、「森林と共生していく」という梶原町の意志を強く感じさせます。



平成30年オープン予定
「森の中の丸ごと図書館・複合福祉施設」完成予定図
(隈研吾建築都市設計事務所設計)

○梶原町の国有林

梶原森林事務所が管理する梶原町内の国有林は、町内森林総面積の約16%を占め、貴重な天然林も多く有しています。その中から特色ある国有林を紹介いたします。

町の北部に位置する芹川地区の国有林では、隣接する民有林の所有者である梶原町及び梶原



久保谷山風景林のアカガシ

町森林組合等と協定を締結し、長伐期化・複層林化を目標とした間伐等の森林整備を行っています。

町の中央に位置する鷹取山植物群落保護林は、樹齢190年を超えるモミ、ツガを主体とする天然林です。

町の中東部に位置する久保谷山風景林は、広葉樹と針葉樹が混生する老齢天然林です。樹齢500年を超える巨大アカガシや天然ヒノキの巨樹を観察でき、天気の良い日には、山頂から太平洋及び梶原町の山々を眺望できます。

○最後に

暑い日が続いていますが、暑さに参っているのでしたら、雲の上の町・梶原町にお越し下さい。

清涼を得るなら四万十川源流や四国カルスト高原を、癒やしを得るなら森林セラピーロードや天然林の散策をお勧めします。